

## 令和6年度 第1回学校運営協議会（令和6年6月6日） 議事録

開会にあたり、校長・准校長あいさつ

校長：昨年度に引き続きありがとうございます。学校側も少しメンバーが変わっているが、管理職は変わっていません。先週、福井地区の方のご協力を得て、体育大会が行われました。

本校では、感染症は大きく流行っていません。巷では、手足口病が流行っていると聞きます。

（メンバーの紹介）

准校長：昨年度は赴任し1年目ということもあり、課題等ともに考えた1年でした。今年度は、組織の改編も行い、将来に向けてどうしていくか考えていきたいので、またご意見いただければと思います。

### 1. 学校運営協議会委員のご紹介

### 2. 学校見学

### 3. 学校運営協議会委員 会長選出

会長：引き続き鈴木様にお願いいたします。

### 資料の確認

### 4. 令和6年度 学校経営計画

校長：・めざす学校像について

「すべての人が将来に希望を持ち、それぞれの自立と社会参加をめざす学校」に今年度変更  
した。

昨年度は少しわかりづらかったので、同じ意味合いではあるがわかりやすいように変更  
した。

中期目標については、大きく変更はしていないが少し言葉尻を変更している。

「子ども達」というところを「児童生徒」という言葉に変更した。

昨年度、3回目の協議会で報告した内容でwebページの活用について、保護者からのアンケート評価が低かったということで、今年度は重点的に変更している。また、キャリアマトリックスが昨年度出来上がったので、今年度はどのように教育活動に入れ込んでいくかを考えている。また、引き続き医療的ケア対象の子ども達の保護者待機の時間を少しずつでもどう減らし  
ていけるのかが今年度の課題になっている。

・業務改善を通した職場環境整備について

毎年4月の年度初めは、超過勤務が月に80時間を超えてしまう教員がいる。今年度に関しては、5月にも80時間を超えてしまう教員を出してしまった。この教員は体育大会に係る分掌長で、一人に負担をかけてしまったと思っている。分掌長自身がそういう時間を取らざる得ない状況を作っているということが学校体制に問題があると考えている。来年度はそれについて何らかの形で対策を取る。

その他については、昨年度と大きく変更した所はない。ご理解いただきたい。

准校長：高等部も校長の言ったことと変わりはない。

・進路について

中期目標の4 「児童生徒一人ひとりの障がいの状態や発達段階に応じながら教科横断的にキャリア教育を行う場となる」の(3) 「希望する進路先を選択できる力の育成と定着率の現状の維持」ということを目標に設定した。今年度、新しく中学部段階の早い段階から次の自分のキャリアや卒業後に向けてのイメージを持てるようにした。進路担当教員が施設等に行き、様々な動画を撮影し、それをみんなで見て仕事に対するイメージを持てるようにしている。

また、昨年までは高等部2年生からの実習だったが、高等部1年生から現場実習を行っていく。

1年、2年の保護者に対しては、進路説明会等でこういう所へ実習に行くということを報告していく。

(4)の職業コースの充実については、引き続き行っていく。働くことについての意識向上を図っていく。

・教科書選定について

高等部の場合、義務教育とは違い、就学奨励費で教科書を購入している。生徒の実態に応じて教科書ではない生徒もいる。より、学習段階に応じた教科書を選定できるようにしていく。

吉田：ICTを活用したとあるが、支援学校の児童生徒用に工夫するのがすごく難しいと思う。情報部などが発信をしたりして先生方自ら研修みたいなものをしていたりしていると思う。学校として先生達のICTの能力を高めるために研修などを行っているのか。また、高等部の場合、就職や卒業後のことを考えて使用する場面が多い。この辺りの工夫などを聞きたい。

校長：ICT機器を使って、学習活動を止めないように書かれている。これは、例えば不登校の児童生徒であったり、入院している児童生徒をzoomなどで学校と、病院や家などを繋いだりして授業を行っている。そういうことの活用になっている。研修については、ソフトを使う研修などは、夏休みなど長期の休みの時期に、校内で5～6個ほどの講座研修を行っている。今現在、パソコン等を使えない教員はほぼいない。ソフトの使い方がわからない人はいる。職員室の机には、一人一台パソコンが置いてあるので、会議などもそれを使って行っている。学部によっては、パソコンで情報を共有し、打ち合わせを行っているところもある。昔とずいぶん違い、パソコンというよりも電子機器やスマホ等を使っている教員は100%に近い。ただ、直接的に教材を作るなどの能力の差はある。また、GIGAスクール構想というものがある。これは、児童生徒に一人一台パソコンを持たせるということになっている。今年度で、3年目になる。使

用できにくい児童生徒もいるが、使用できる児童生徒に関しては、家でも使用できるようにしている。しかし、パソコンを使える児童生徒に関しては、スマホ等を持っているのであえて、持ち帰らなくても大丈夫なようになっている。しかし、スマホ等を持っていない児童生徒に関しては、家に持ち帰り使用できるようにしている。教員も児童生徒も一人一台ずつ保持でできるだけの台数があるという時代になってきている。

鈴木：訪問教育の担当者が孤立してしまわないようにバックアップして欲しい。保護者とうまくいかせようと、全部抱えこんでしまうということが昔あった。周りに相談しづらい状況でかなりしんどい思いをさせてしまったことがあった。現在の訪問担当者はどのように選任しているのか。

校長：訪問教育部という形ではなく、一担任という形で訪問教育をしている。固定化した一人の教員がすべて担っているわけではなく、複数の教員で一人の子どもを見ている。孤立する可能性は、ゼロではない。関わっている教員がもし二人であれば、二人で話をしないと実態がわからない。なので、悩みは若干ではあるが共有し、話が広がると思っている。昔と違って、訪問教育がオープンになってきている。家庭に入ることや病院に行くこともなどもある。

全体的にみんなで関わっている。トラブルについても通学生の保護者とトラブルになることもある。部主事や学年主任に相談したりしながら先生方が孤立しないように配慮している。また、管理職等より意識して様子を伺うこともある。

三輪：・HP、メール配信について

今年度は、保健だより等さくら連絡網で配信することになっている。昨年度、年度末にPTAだよりを配信しようとしたら、容量が足りず、紙配信になってしまった。容量を追加しようとしたらお金がかかってしまうといことで紙配信になった。今年度も昨年度と同じ容量のさくら連絡網ではじめているが足りるのかが気になる。

PTAも様々な情報をみなさんに発信していきたいと思っているが、学校もPTAも発信していくとやはり容量が気になる。また、HPにもPTAに関する項目があるが何年も更新が止まっている状況。更新していけたら良いと思っているがHPの容量なども決まっているのか。

木嶋教頭：さくら連絡網は、契約の時点で容量が決まっている。アプリで閲覧するかLINEに通知が届くようにするかを受信者側で選択できるようになっている。LINE送信について上限が決まっている。なので、その年によってLINEで登録されている人が多ければ容量がすぐにいっぱいになってしまうので中々年度初めによめないところがある。昨年度、はじめて容量がいっぱいになったという通知がきた。

容量を増やすためには、料金が発生してしまうので、追加で増やしてもあらかじめ増やしても同じ金額になるので、年度末に足りなくなったら追加していけたらと思っている。

校長：会計を締めた後に容量が足りなくなったら増やせないことになる。昨年度は、会計を締めた後に足りなくなってしまった。なので、学校側もセーブしたところがあった。これは、よくないと思っているので、今年度については、少し考えていかなければならないと思っている。また、容量不足が起こるとしたら、R7年の1月、2月、3月くらいになると思われる。

HPの件については、容量というものはない。ただ、コンテンツについては、教育委員

会が見ているのでふさわしくない内容についてはアップできない。また、現在はPTA単独でHPにアップすることができないようになっていて、教員でしかアップできないようになっている。他の文章を出すのと同じように、校内で起案を回した状態でアップするということになる。

准校長：学校HPについて、今は教育委員会の統一様式になっている。刷新しようと準備はしている。もっとわかりやすいように情報部も頑張っている。ここ数年の間に変わっていく。また、PTAもどのようなものを発信したいかなど考えてもらえるとよい。現在は、PTAの発信は休止中だが、もしアップしたいものがあれば担当首席に起案を回してもらえるとアップできる。

## 5. 授業アンケートについて

木崎教頭：・授業アンケートについて

例年通りの実施。

1番のアンケートの趣旨については、平成31年度大阪府教育委員会より出ているアンケート

の手引きより。児童生徒にわかる授業、魅力的な授業を評価する指標。

昨年度も本校の授業アンケートの中から、保護者から課題が子ども達にあっているのかなどというような評価を頂いた。そのあたりを参考にしながら研究部でも授業改善に向けすすめている。実施方法について、今年度も生徒対象、保護者対象それぞれに実施する。

生徒については、小学部については、回答が難しいので例年通り実施はしない。

中学部・高等部についても例年通り行う。

保護者対象のアンケートについては、参観週間を設けて実施する。

生徒・保護者対象どちらについても2回実施し、7月上旬の1週間、12月上旬の1週間を予定している。

実施方法についても記名してもらい、封筒で厳封し提出してもらおう。管理職以外の教員は見ず、プライバシーを厳守しながら実施する。これは、大阪府統一の実施方法になっている。

保護者のアンケートについては、自由記述の欄を設けているのでたくさんの授業に関する意見を頂きたい。

アンケートについては、結果を学校でまとめ教員と協力しながら授業をより良くし、子ども達にとって魅力的でわかりやすい授業になるように改善を図っていく。

鈴木：基本的に子ども達は、学校生活のほとんどを授業で過ごす。教員の仕事は授業をすること。校務分掌など授業以外の仕事もたくさんあって大変だと思う。子どもに面して授業をするということを保護者が一番望んでいること。

授業をするにあたってあまり熱意がない先生を評価されてしまうと、学校の評価も下がってしまう。協議会などで先生方の授業を見学する機会があるが校長などが見学に来ると空気感が変わってしまうことがある。気付いた点等あるが、その場で助言してしまうと子ども達の雰囲気が変わってしまうのでしないようにしている。また、客観的に見るという所で保護者の評価が大切

になってくる。日々、子どもとどのように接することが大切かを思い出してもらえると学校がよくなっていく。

三輪：授業アンケートなど web で回答ができるようになれば良いと思う。保護者も紙で回答するのが苦手な人もいる。参観には、行くけどわざわざ記入してまで・・・という人も中にはおり、直接、担任に伝える人もいる。メールするみたいに、回答できたら集計等も先生方の負担にならないのかと思うので、大阪府の方に伝えていかなければいけないと思っている。

吉田：途中経過などで様々な問題等が出てきたらその都度、話し合っていくことでお願いしたい。

## 6. 令和6年度 使用教科用図書について（資料あり）

下田†：資料説明

・採択するにあたっての注意点

- ① 児童生徒の実態、授業の内容・目的にあっているか。
- ② 興味関心が持てるものか。「おもしろそう」と思えるものか。
- ③ どのグループ、どの学年で使用するか。1年間か3年間か。学年をまたいで使用する教科書もあるので、年度の変わり目には教科書がそろっているかの確認をしている。

・保護者にも使用教科書一覧を確認してもらっている。各学部の教科書担当の教務教員が説明している。

・今までは、これでいけたが、これでいいのか、他にないのか。という再検討する時期に来ている。

・昨年度、デジタル教科書は使っていないのか？という質問があったが、今年度、準ずる教育で iPad を使用していることが確認できた。

・第3回で来年度の教科書一覧を紹介します。

鈴木†：本を探するとき目に留まるものは、自分の受け持つ子どもに合っているかという見方をすると思う。新図書の中から子どもたちに合ったもの、時代に沿った文章、絵本は日々変わる中で、どこかで情報が集約できる場所があれば、先生方の興味を持てる本が見つかるかもしれないと思っている。

南†：一般図書については選ぶリストがあって、展示会がある。いいものがあったとしても翌年は絶版になっている場合もある。

大峠†：学校では選べない。（小中学部）高等部では選べる。教科書選定は、選定委員として大阪書籍に行き選ぶが一日しか見ることができない。副読本としてはどんなものでも選べる。（無償にはならないが・・・）実際にはプリント学習が多く教科書の活用が少ない。今年はたくさん選択している。

## 7. 意見書について

木崎†：提出はなかった。傍聴希望もなかった。協議員のみで開催となった。

## 8. その他（事務連絡）

木崎†：第2回 11月、第3回 1月末から2月始めを予定。あらためてアンケートを送らせていただきます。授業アンケートについては第2回で途中報告します。

下田†：今年度採択した教科書を一部展示しています。ご覧ください。

木崎†：本日はお忙しい中、ありがとうございました。